

# 薬用植物園かわらばん

皆さ〜んちょっと覗いてみませんか？  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2018年  
8月23日  
第49号



## ゴマ（ゴマ科）

園内、第一圃場に淡いピンクの花が咲いています。インド〜アフリカ北部原産の1年草。ゴマは最古の油料作物と言われてますが、日本での生産量は約100トンと少なく、99%近くがミャンマー、中国からの輸入品です。ゴマは種子の色により、黒ゴマ、白ゴマ、金ゴマと呼ばれています。

薬用には黒ゴマを用い、生薬名：胡麻（ゴマ）と言ひ、漢方では補陰、潤腸、補肝腎を目的に、肌を潤わせ、気力を高めるために、消風散など配合されます。また、種子を圧搾して得られるゴマ油は、酸化しにくい特徴があり、紫雲膏などの軟膏の基剤としても使用されます。ゴマの花の色と種の色には繋がりがあひ、白ゴマには白花、黒ゴマには淡いピンク色の花が多いようです。

## ツユクサ（ツユクサ科）

園内各所で、特に資材倉庫の周りに多く見られます。野原や道端の何処にでも見られる1年草です。ネズミの顔のような形の花は、早朝から咲き始め、午後には萎んでしまいます。古名は「ツキクサ」といひ、花の汁を青色染料に用いたことに由来します。水に浸すと簡単に色がぬけるので、今でもツユクサの変種のオオボウシバナが京友禅の下絵用の染料の原料として用いられています。青い色素は金属錯体型アントシアニン、「コンメリニン」と呼ばれるもので、日本の花色研究陣が初めて結晶化に成功して、ツユクサの属名 *Commelina* より名付けられたそうです。蒸して日干しした地上部を、鴨跖草（オウセキソウ）といひ、中医学では清熱瀉火薬として、日本でも解熱、喉の痛みに対する民間薬として利用されます。

今、こんな草木が楽しめますよ！！